

## 鷺北 貴史 講師

【わしきた たかちか】

1961年 横浜生まれ。北里大学卒。慶応義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得。タウン紙記者、理科教師を経て、30代半ばで大学院進学。専門は、教育社会学・家族社会学。自称、リメディアル教育学会の旋風児(マイタガイ)「ユニバーサル時代の大学の在り方」が主な研究テーマ。



●論文の読み方・書き方  
b1・b2・c1・c2

学生諸君よ、試行錯誤しながら  
自分探しをしようぜ！

実は、私は超劣等生でした。高3の全国模試では偏差値25を達成！担任からは「進学はあきらめろ」と言われたアホ少年でした。

二年浪人の後、第6志望校(すべりどめ)の理系の大学にいきましたが、解剖がダメ、pg(ピコグラム=1兆分の1グラム)なんて細かい作業は向いて無いと分かっただけの墮落した学部時代でした。ひたすらジャズとボウリングと睡眠の日々でした。当然、留年しました。(笑)

タウン紙記者を経て、高校の理科教師になりました。いわゆる「ヤンキー高校」で格闘していましたが、教職で習った事と現実にはかなりのギャップがありました。「教育の問題を学び直さない」と33歳の時決意して、勉強をゼロからやり直しました。

最初は、教育哲学から入り、教育心理学をかじりましたが何かしっくりきませんでした。そして教育社会学が当時の自分にはビビビッときたのです。そして今の師匠のゼミの聴講生にしていただき、修士、博士と13年かけて到達しました。「ビッグマリオン効果」という理論に出会った時に、自分のモヤモヤがスッキリ晴れ渡った感動は言い表せないものでした。そして社会学の実証研究へと専門が移っていきました。

社会的な視座は、経済の諸問題の背景を知る手がかりになると考えて講義をしています。「ユニバーサル時代の大学教員は、研究者である前に教育者であるべきだ」この持論を実践すべく<魂の社会学講釈師>の立場で学生諸君と熱い時間を共有していきたいと考えています。

講義は「論文の読み方、書き方」を担当しています。

実は、論理的文章を読み書きするスキルは、自分の頭で思考するスキルなんだよね。「問い」の深さが、勝負なんだよ。

落ちこぼれだった私だからできる、新たな時代の大学教員のあり方を追求しています。去年は学生5名と三扇祭のステージで歌って踊りました。準優勝してしまいました(爆)。

学生目線で、今後も「問い」の世界へと、学生諸君をいざなっていきます！

聴講生のひとこと



「論文」と聞くと、小難しいイメージを抱かれるかもしれませんが、さすが堅苦しく考える必要はありません。鷺北先生の講義は、文章を書くことが苦手だという意識を、文章を書く訓練の中で解消してくれることでしょう。この講義では、経済学部で講義であるにもかかわらず経済学に偏らない幅広い知識や情報を楽しく教えて頂きました。文章を書くことへの苦手意識を克服するとともに、大学生活において更には社会人に求められる「伝えたい意図を簡潔に且つ的確に他者へ伝える」能力を身につけられます。また、大学の講義の常識を覆す「革命的」な講義でした。まさか公立大でこんな講義に出会えるとは……。 2年 福田 彩